

## 第 25 回地球環境シンポジウム「再生可能エネルギー」セッションの報告

政策委研究小委員会

神戸大学で開催された「第 25 回地球環境シンポジウム」において、政策研究小委員会は「再生可能エネルギー」特別セッションを行いました。9/6（水）の午前中に 2 つのセッションに分かれて、再生可能エネルギーや新しいエネルギーシステムに関する最新の研究、事例など計 9 編を発表していただき、その質疑応答と総合討論を行いました。発表された内容は以下の通りで、木質バイオマス（3 編）、地中熱（2 編）、太陽光（1 編）、エネルギーシステムに関するもの（2 編）、エネルギー特性を考慮した CO<sub>2</sub> 排出推計（1 編）でした。

### 【特別セッションでの発表】

#### ■ 9:45～11:00 「再生可能エネルギー(1)」

- A-11 流木を利活用した地域熱供給システムの検討
- A-12 全国地盤物性データベースを用いた地中熱利用ヒートポンプ暖房システムの導入効果分析
- BO-1 沖縄県における地中熱採熱期待値マップの作成事例
- BO-2 廃棄物埋立処分場等への太陽光発電の導入 ～環境省委託調査結果の概要報告～
- BO-3 小型バイオマスガス化施設の首都圏導入の位置づけについて

#### ■ 11:15～12:30 「再生可能エネルギー(2)」

- A-13 インドネシア・バンカラン県における地域住民参加型バイオエネルギー開発プログラムの持続可能性
- A-14 中山間地域における分散型エネルギーシステムのデザインと導入基準
- A-15 家庭部門における地域別エネルギー消費特性を考慮した二酸化炭素排出削減目標の達成可能性
- BO-4 釜石市でのスマートコミュニティ構築（事例報告）

### 【総合討論】

総合討論では、再生可能エネルギーの普及に土木業界が貢献していくために必要な取り組みについて意見交換を行いました。主な意見は以下の通りで、①成功事例の活用による実装、②付带的、派生的な効果の考慮、③情報発信、④普及のためのインセンティブの必要性などに関するものでした。今後の小委員会活動に考慮していきたいと思えます。

- ◆ 地域に良い評価を得たシステムを実装していくには、小規模でも身近な成功事例を作り、導入の不安を払拭していくことが有効である。
- ◆ 木質バイオマスの場合、森林を整備することが治水的にも効果があり、流木等も少なくなり地域の環境がよくなるというような考え方も取り入れていくべきである。
- ◆ 必要な情報が行き届かないことがあるので、情報発信をどのように行っていくかを考えていくべきである。

- ◆ 事業実施による CO<sub>2</sub> 削減効果も事業の評価の中を含め、地域社会や地域経済にどのような影響を与えているのかを計測していくことも必要である。
- ◆ インドネシアの木質バイオマス事業の場合は、金銭的インセンティブで個人的に豊かになれば満足する人は多いが、日本でのインセンティブの考慮も必要となる。
- ◆ 現状の地産地消関係のプロジェクトは、一部の人が周りの人を引っ張っている場合が多い。どのようなインセンティブを付与すれば、そのような動きが活発化し、無関心層が減っていくのかを考えていくべきである。